

SSW便り 東広島市立松賀中学校

保護者の皆様へ No, I



スクールソーシャルワーカー岡野より

令和4年7月11日(月)

4月21日の松中だよりでご紹介いただきましたスクールソーシャルワーカーの岡野です。家庭訪問や福祉関係機関をまわることで東広島市や松賀中学校に少し慣れてきました。相談してみたいことがありましたら学校へお電話ください。(月火勤務 窓口は鈴木教頭・竹添主幹・東岡生徒指導主事) こちらから出向いてお話を伺うこともできます。

このSSW便りは不定期ですが、保護者の皆様にお伝えしたいメッセージを届けます。

「ゲーム障害」は疾病に認められています。

iPhoneがこの世の中に登場して15年(初代発売2007年)、便利なスマートフォン(以下「スマホ」という)は瞬く間に世界中に広まり、社会構造をも変え続けています。

令和2年度内閣府の調査によると、スマホの利用率は小学生37.6%・中学生65.6%・高校生91.9%と伸び続けていますし、近年はコロナウイルス感染症による巣ごもり生活の影響もありスマホの利用率は急拡大しています。

この間、多くの小中高生がスマホによる被害・加害・依存症に侵され、いじめや不登校や性的犯罪等の問題につながってきましたが、令和元年5月25日、やっとWHO(世界保健機構)が「ゲーム障害」を国際疾病分類の一つに認定しました。

それまでも「ネット依存」等の言葉をよく耳にしてきましたが、医学的に疾病とは認められていませんでした。

WHOの認定を受けて、これからはオンラインゲーム等に依存する子どもへの適切な治療が期待されます。同時に私たちはスマホ依存を予防し治療するという視点を持つ必要があります。

次のような状態が1年間続けば、ゲーム障害と認定されるそうです。

- ①ゲームをしている時間や頻度などを自分でコントロールできない。
- ②日常の関心ごとや日々の活動よりゲームを優先させる。
- ③家庭や学校、職場などの日常生活に問題が生じてもゲームにのめり込む。

ネット依存になってしまったこどもの保護者にしないほうが良いアドバイスがあります。

「いつか飽きるから、気が済むまでやらせなさい」

「心を鬼にして取り上げなさい」

どうしてこれらのアドバイスはダメなんですか？
考えてみましょう

.....答えは裏ページにあります。



解答例 このアドバイスはしないほうが良い理由

「いつか飽きるから、気が済むまでやらせなさい」というアドバイスがダメな理由は

「子どもが飽きることは、ほとんど無い」からです。オンラインゲームの場合、複数の相手と同じ場所で競い合い、チームの絆や達成感を味わいます。そしてネット上には数限りない種類のゲームが存在しますから飽きることはほとんどありません。ゲーム業者は飽きさせずゲームにのめりこませるよう巧妙に罠を仕組んでいます。

「心を鬼にして取り上げなさい」というアドバイスがダメな理由は

子どもが猛烈に反発して、時には暴力をふるうこともあります。また、子どもがつらいことからの逃げ場としてスマホに避難している場合や、友達との関係で急にはやめられないこともあるからです。

「子どもをネット依存症から守る」という親の覚悟

「絶対にしてはいけないアドバイス」からもわかるように、この問題に即効薬はありません。親子の話し合いこそが重要です。

子どもが最も納得しやすいのは、**買い与える（親が貸す）タイミングでのルールづくり**です。このタイミングでノールールだと後々が大変です。

ルールの一つ目は、親子で話し合っ決めて決めるルールです。使用にかかる料金を支払うのは親ですから、当然親が主導権を握りますが、子どもの要求も考慮してください。約束する内容はたくさんありますので、今後のSSW便りで紹介していこうと思います。

すでにノールールで買い与えてネット依存症にしてしまった保護者はこれからが大変です。本気で子どもと向き合い話し合う覚悟が必要です。

子どもにとっては「ほっといてほしい」迷惑な話でしかないかも知れません。

いくら親が本気で話しても、子どもには同世代の友達同士の常識が優先することも多々あります。中学高校生は自立のために精神的に親を乗り越える時期だからです。

それでも**子どもの幸せを願うのなら、避けてしまっはいけないのです。**本当にしんどい作業ですが頑張ってください。何とかして「依存」「いじめ」「出会い（炎上）」等から我が子を守ってください。

自分に本気で関心を持ってくれる大人を、子どもは信頼します。たとえその時はケンカ別れになったとしても「雨降って地固まる」ときが来ると信じましょう。

子どもがネット依存症という疾病になる可能性が高いとわかっていて、我が子に買い与えそのまま「放っておく」ことは無責任です。「よくわからないから」とネットの話から逃げないで下さい。

参考:2019年7月更生保護（日本更生保護協会）

